

2019年のアユ資源調査結果概要

久米弘人・太田滋規・亀甲武志・田中秀具・松田直往

1. 目的

アユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 方法

魚群調査は、1月から8月まで毎月1回、北湖の水深30m等深線付近の定線調査コース上に出現する魚群数を観測した。

産卵状況調査は、8月から11月にかけて7回、北湖に流入する11河川の産卵場においてアユの産卵量を調査した。

ヒウオ生息状況調査は、9月から11月まで毎月1回、北湖において網口1m×2mの角形幼生網による1,000mの水平曳きを18回行い1

曳網あたりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査は、エリとヤナの漁獲標本を収集し、体長等を測定した。

3. 結果

魚群数は平年の20～99%で推移した(図1)。産卵量は53.6億粒で平年の約58%であった(図2)。ヒウオ生息密度は平年の39～74%で推移した(図3)。エリ漁獲アユの平均体長は、漁期前半は平年よりも小さく推移したが、後半はほぼ平年並みであった。ヤナ漁獲アユの平均体長は、漁期前半は平年よりも大きかったが、後半はほぼ平年並みであった(図4)。

これらの調査結果は水産試験場ホームページに掲載し、漁業関係者等へ情報提供した。

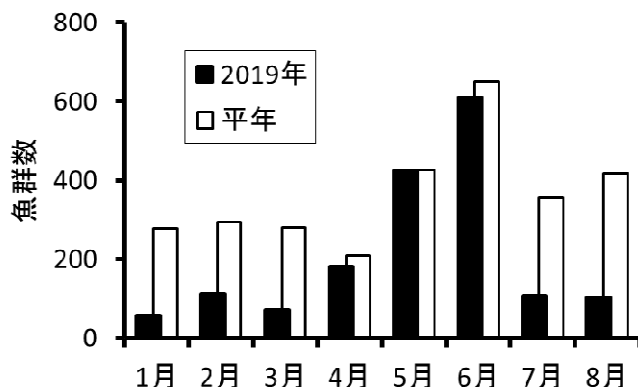


図1 魚群数の推移

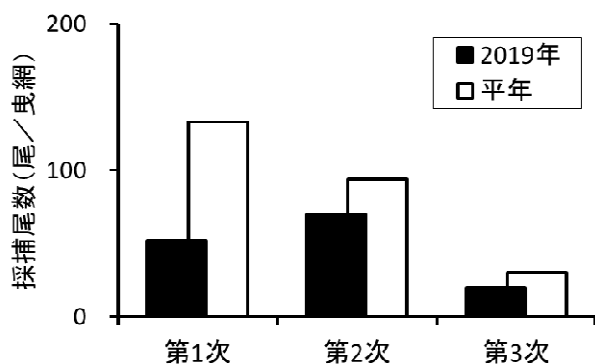


図3 ヒウオ生息密度

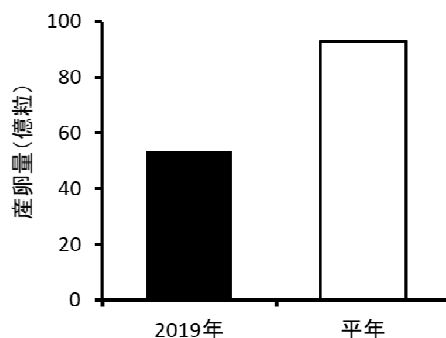


図2 天然河川における産卵量

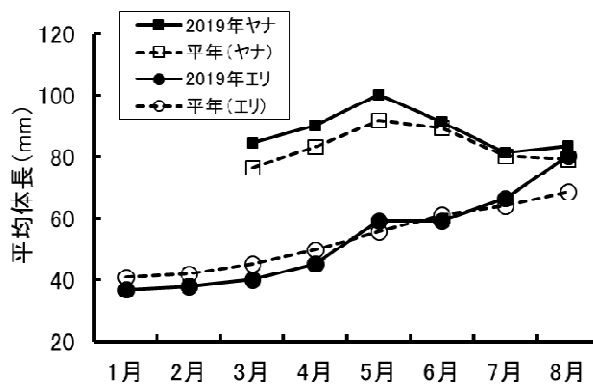


図4 エリおよびヤナ漁獲魚の平均体長

平年とは過去10年から最大最小値および欠測年を除いた平均値